



9月の園だより

社会福祉法人 **であいの里 さやま保育園**
2022年9月1日発行

今月の行事予定

- 5・12・26日 礼拝
- 9日 避難訓練 15日 交通指導
発育測定(14日ほい・15日もう・16日あひ)
- 20日 リハーサル 23日 きらら運動会
- 26日 クッキー作り 27日 誕生会
- 26日 口座引落日

保育目標 報謝 ありがとう

- ・だれにでも、進んで「ありがとう」をいいます。
- ・お友だちを励ましたり、協力したり、運動会を楽しむ。

【先生！見て！みて！】

危険を感じる暑さが続いた今年の夏でした。暑すぎて、なかなか、水遊びや泥んこ遊びも十分出来ませんでした。朝夕の涼しい時間、涼しい場所を見つけて、外遊びを少しずつ始めています。きらら運動会の練習も、西側駐車場が午前中は陰になりますので、9月から始めていきます。そこで、8月の奉仕作業では暑い中ですが、毎年保護者のみな様に、駐車場の草取りをお願いしています。

運動会の練習が始まると、子どもたちから「先生見て！玉入れ入れるよ、見て！」とカゴにも届かないのに、何度も挑戦する子。「先生、よーいどんするよ、見ててね！」と最後まで頑張る子。鉄棒が上手な子の隣で、「先生、出来るようになりたいの、見ててね」と何度も練習する子。縄跳びやコマ回し、竹馬など、「先生見てみて」と、子どもたちがそれぞれの目標を達成するために、失敗を乗り越えながら、一生懸命繰り返し取り組み、成長していく姿です。

そんな子ども達の成長を見守る親や保護者にとって大切なことは、仏さまの「慈悲」の心であり、「苦しみに寄り添うことで安心を与える」ことであると、9月の「ないおん」の大來尚順先生の「一緒に成長する」で学ばせていただきました。

子どもたちの葛藤を見ているのが辛くなって、ついつい手や口を出したくなってしまいます。子どもが「自ら苦しみを乗り越えて行ける力」を信じて、保育者や保護者、まわりの大人は、じっと見守る姿勢を大切にしていきたいと感じました。

「親が子どもと代わってあげられない苦しみはたくさんあります。しかし、子どもにはそれらを乗り越えていける力が備わっていることを知りました。そしてそれらを開花させるためには、もどかしさを堪えながらじっと見守る親の力も必要なのかもしれません。成長とは親子一緒であるということを改めて学ばせていただきました。」と述べられていました。

【法話】

【お彼岸】

今年は、最短最速の梅雨明けのあと、局地的瞬間的豪雨という異常気象の猛暑の夏で、新型コロナも、第7波が全国的にも県内も、感染者数最多更新する日々となり、非常に厳し状況です。より一層、感染予防にお互い留意し、不要不急の外出を避け、必要至急に限る生活を心掛けたいものです。

お彼岸は、「暑さ寒さも彼岸まで」と、昔から言われるように、春と秋の年に二回、一週間ずつあります。その一週間の真ん中の日が、彼岸の中日で、現在では、春分の日、秋分の日という祝日になっています。ではなぜ祝日なのでしょう？昼と夜の長さが同じだから……太陽が真東から昇るから……？「国民の祝日に関する法律」には、秋分の日は「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ」とあります。昔からの仏教行事であるお彼岸の意義をくんで、祝日に定められているようです。

今の私のいのちがあるのは、数え切れない多くの先祖の方々がおられたからです。その多くの方々の大きなお徳を偲ぶ中で、私自身のいのちを考える日として定められているのが、お彼岸なのです。日頃は、か彼岸(真実の世界)に目をそむけて、こ此の岸(迷いの世界)に生きている私達ですが、お彼岸に際し、少しでも私のいのちについて、真正面から考えてみたいものです。私自身の、いのちが、どこから来て、どこに行くのか、真剣に考えてみましょう。私の頭では、答えは出ませんし、仏教・仏さまの教えに尋ねる・御聴聞する以外、答えは見つかりません。俱会一処、また遇える世界に向かって、ともに生きて往きたいと思合掌

今年度の運動会は人数制限をせず、たくさんの方に応援いただける行事にしたいと思っています。

日々の感染対策・健康管理をしっかりしていきましょう。